

## WEB 会議を活用して災害対策本部・災害調査対応本部訓練を行いました（2020/12/2）

テーマ：災害対策本部、災害調査対応本部、事業継続計画（BCP）、WEB 会議方式  
場 所：災害科学国際研究所（仙台市青葉区）

12月2日（水）午後1時より、当研究所において、新型コロナウイルス感染症に配慮してWEB会議方式を活用した災害対策本部及び災害調査対応本部の訓練を実施しました。訓練としては5回目ですが、WEB会議方式の活用は初めてです。本訓練は、感染症の蔓延下での災害対応訓練として試行したものです。また、本年10月に一部修正した当研究所の「防災・業務継続計画（BCP）」の習熟も目的として実施しました。訓練事務局は、丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）及び佐藤翔輔准教授（同）が務めました。

被害想定は、台風及び前線活動などにより2日前から降雨があり、前日からの豪雨の中で、午後1時に直下型地震が発生、震源は仙台市の長町-利府線断層帯でM6.5、最大震度6強としました。地域に深刻な被害が出たという状況を付与しましたが、電力とインターネットは活用可能であり、WEB会議が活用可能な設定としました。

まず、自衛消防隊が所長室に設置された本部に実働で参集し、所員参加の実働訓練としては研究所の各階・ウイング単位での在室の安否確認を実施しました。各ウイングの安否確認結果は、通常は本部に担当者が出向いて報告しますが、今回は各ウイング担当者からメールで総務班へ連絡し、面談を不要とする集計を行いました。

その後、災害対策本部の会合は、所員全員が参加・傍聴が可能な場としてWEB会議システムのZoomで開催しました。一方、自衛消防隊及び災害対策本部の幹部、各班長・副班長等の限定メンバー間の報告・議論は、別のWEB会議システムMicrosoft Teamsで開催しました。システムを区別したのは、双方の会議の混同を避けるためです。後者にも参加するメンバーはネットにつながるパソコンが2台必要となりますが、当研究所の教員はその確保が可能な状況です。一方、事務部職員は同じ班の同僚と組んで2台を確保するのでよいとしました。訓練で実際に2台を並行して使う場面は短時間でしたが、段取りとして準備することを訓練したものです。また、後者の限定メンバーの会議参加者は、クラウドのGoogleドライブの共有フォルダを活用して、情報共有を行えるようにしました。

この訓練への参加者は、安否確認訓練については所内にその時点で所在した105名、災害対策本部の対策本部WEB会議については、教職員61名でした。

会議内容は次の通りでした。

- 状況付与に基づく各班長からの被害報告や安否の状況の報告
- 大学本部から求められた重大被害至急報告のとりまとめ（1名の負傷者の報告）
- 災害研BCPのポイントの簡潔な説明と確認
- 学生・教職員の帰宅判断の議論（本部メンバー内の議論の訓練）

続いて、当研究所が災害発生により緊急に調査等を行う必要性が生じた場合に設置する「災害調査対応本部」の訓練を、引き続きZoomによるWEB会議方式で開催しました。同本部は、地震・地殻変動、津波調査、地震被害調査、地すべり・地盤災害、医療対応、情報分析、民間部門調査などの専門分野ごとの班によって構成されていて、それぞれが発表や提案を行います。

主な会議内容は次の通りでした。

- 各班から、地震、水害のデータ及び初期的分析の報告や、把握した各種被害の状況報告
- 各班の近隣市内や被災の著しい地域の現地調査の計画の発表及び役割分担
- 執行部・事務部からの現地調査の安全確保等の留意事項の提示
- 今後の調査の対応方針の議論と所長からの総括的指示

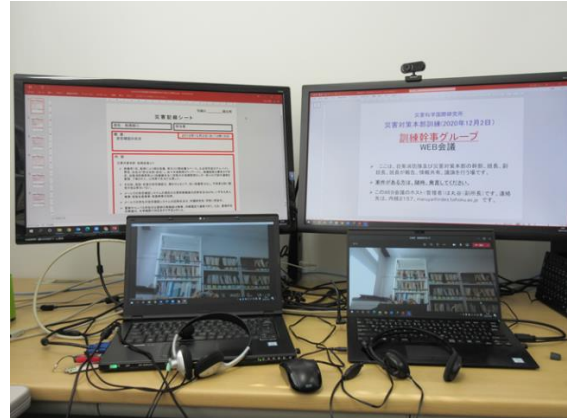
当研究所は、新型コロナウイルス対応で所内の重要会議を平常時からWEB会議で開催していることもあり、今回の訓練では大きな混乱もなく、電力とインターネットが確保できれば両本部をWEBで開催することは可能とみられました。ただし、緊急の意思決定を迅速にできるかなど今回の訓練では検証が不十分な点もあり、参加者の意見も踏まえて、実施方法の改善を進めていくこととしています。

文責：丸谷浩明（人間・社会対応研究部門）

（次頁へつづく）



自衛消防隊の幹部の初動参集（実働）



2つのWEB会議を2台のパソコンで参加



自衛消防隊、災害対策本部幹事の会議



災害調査対応本部会議

別紙5: \_\_\_\_\_ 提出用

**災害記録シート**

班名: 教護班-総務班      担当者: \_\_\_\_\_

概要: \_\_\_\_\_ 2020年12月2日(水)13時15分

概要: けが人の状況と対応

内容:

- 災害対策本部 教護班員より
- 総務班とともに、負傷者1名を確認
- 負傷者1名。転倒により腕を負傷。発生は3階図書スペース。丸谷研究室のアルバイト、男性。氏名は「防災次郎(仮名)」。佐々木准教授がトリアージし、負傷程度は軽傷と判断。自衛消防隊幹部より伝達された宮城大の保健管理室に受入打診の連絡を要請。了解された。公用車で先ほど出発した。(本事項は総務班への状況付与と共通)
- 教護班より1名が宮城大に随行し、無線機を持参して本部と連絡を取り合っている。宮城大の幹部の診断結果の連絡を待っている。
- 公用車には、教護班のほか、丸谷研究室共同研究員1名が同行。

状況付与に使用したシート



情報共有に使用した Google ドライブ